

心理的安全性を確保した手術支援ロボット da Vinci X チームへの 臨床工学技士としての関わり

I.背景

当院は2021年4月に手術支援ロボットda VinciX(以下ダビンチ)を導入し、前立腺全摘除術を初症例とし泌尿器科中心で展開してきた。さらに2022年9月には外科領域で腓体尾部切除術にてダビンチ使用を開始し、導入から泌尿器科領域で178件、外科領域で6件、特に大きなトラブルなく行っている。

II.目的

ダビンチ導入は病院挙げてのプロジェクトであり「ダビンチチーム」が結成された。当初はダビンチ導入のための手術室改装や必要な機器選定が中心であり、CEはチームに入っていなかった。医師、事務部及び業者で結成されたが、手術には看護師はもちろんCEも関わるので、安全導入のために、2020年12月から看護師とCEもチームに加わった。結成から2年経過するが、現在もメディカルスタッフの心理的安全性の確保及びモチベーションが維持されている。CEとしてチームへの関わり方を報告する。

III.方法

当初のチームは関係部署の管理職で構成され、手術改装や日程調整等、主にマネジメントを中心に月1回話し合われた。その後、症例に立ち会うメンバーを別に出し、月2回話し合いを行った。そこで出た意見は相互で報告し、改善点を伝え、双方の認識の統一を図った。心理的安全性を確保するために、職種関係なく不安・改善点が伝わる環境を整えた。さらに、医師との症例に関する連絡はメンバーに任せることで、信頼関係を築くことができ、結果としてモチベーションの維持に繋がった。また、初症例までの予定共有やトレーニング受講を職種関係なく義務化した。症例前のシミュレーションは手術立合い者全員参加とし、実際の進行に合わせて機器の配置や疑問点を共有した。さらに医療安全管理責任者や皮膚排泄認定ケア看護師(WOCナース)も立ち合い、様々な角度から安全性を検証している。症例後はデブリーフィングをメディカルスタッフで行っており、改善点や問題点は症例ごとに共有している。

IV.結果

現在まで大きなトラブルや大きな不安もなく行えている。それは初症例までの取り組みとデブリーフィングが標準化し、現在も継続していることで、問題点の表面化及び解決が迅速に実施されているためである。新規術式導入時も同様に行うことが求められるため、医師のみの申請では新規術式が認められない。結果的に職種関係なく心理的安全性が確保されており、それが大きなトラブルなく質の高い手術へと繋がっている。今後も安全かつ質の高い手術を継続していきたい。